

令和7年度外部評価会 集計表(農業者)

所属名:

課題名② ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の産地導入支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6	1		先を見据えたポイントが素晴らしい。	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	2		他品種も同時に実証すれば更によいのでは？ 新たにバレイショに取り組む農家でも試してみ ては？	・「しまあかり」の他に2品種を実証済であるが、収量性が低く、普及性は低かった。中でも、「しまあかり」は現地適応性が高かったため、普及に向けて取り組んでいる。 ・実証農家の選定については、「しまあかり」の種いも供給量が限られているため、他生産者への波及性や地域性を考慮しながら、関係機関で選定している。
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	6	1		色々な角度から見ていて良い。	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	6	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	7				
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5	2			
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	4			
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	3			
全体的な意見・提言等		・種いもの確保をすすめてほしい。 ・新品種の実証がまだまだ必要、認知がまだまだ進んでいない ・佐多地区・沿岸部栽培は良いと思うが、遅植えの地域では課題があると思う。				

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大隅地域振興局農政普及課

課題名② ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の産地導入支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	7				
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者, 地区)の選定は適切であるか	7			その後の波及を考えて, 部会班長などで実証を開始している。	
活動体制・ 活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	5	2		種いもの入手困難を想定した早い取組がよい。	
	④活動(活動方法, 時期, 手段)は適切であるか	6	1			
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	3			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5	2			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	4	3			
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者, 地域への波及性があるか	6	1		経済栽培の実証, 食味評価, 部会等での説明が行われており, よい。	
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	3			
全体的な意見・提言等		・しまあかりの消費者の評価も聞いているのか(あると普及しやすい)。 ・国内産自給率が低下している, 関係機関と連携し取組を加速化してほしい。 ・今後の計画のペースは妥当なのか。 ・病気に強い品種改良の早期実現が必要。 ・農家所得向上のため, 種いもの生産に早く取り組んでもらいたい。				

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の産地導入支援



1 産地の概要

なんぐう地区のジャガイモは、

- ★ 栽培面積 120ha （県内で5番目の産地）
- ★ 他野菜との組合せ品目として、古くから定着
- ★ 植付ける種いもは、**北海道に依存**
- ★ 品種は「ニシユタカ」⇐**ジャガイモシストセンチュウに弱い**



発表内容

- 1 産地の概要
- 2 課題を取り上げた背景と目的
- 3 普及指導計画での位置づけと活動体制
- 4 活動内容
- 5 残された課題

2 課題を取り上げた背景と目的

ジャガイモシストセンチュウ（以下：シストセンチュウ）とは？

ジャガイモの根に寄生し、地上部枯死により減収

⇒ 発生すると根絶は困難、
抵抗性品種の栽培や、ほ場に持ち込まない対策が重要



（写真：農畜産業振興機構HPより）

2 課題を取り上げた背景と目的

★発生地域は、
北海道・長崎・熊本等で
拡大傾向

⇒ 鹿児島への侵入が危惧

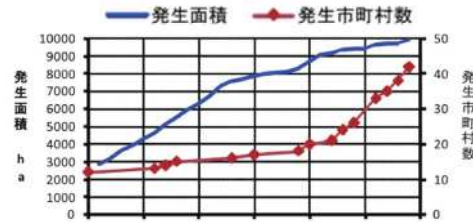


図 発生面積と発生市町村数の推移
(北海道病害虫防除所の資料より)

★全国への拡大を防ぐため、
発生地域は種の生産や流通が制限

発生ほ場・・・・・・・・種いも栽培は不可
発生ほ場のある地域・・原則種いも生産が不可(条件あり)

発生拡大により、採種地(北海道)で種いもが生産不可に
⇒ 鹿児島への種いも供給が困難に！

ジャガイモ栽培を続けていくうえで、
シストセンチュウ抵抗性品種(以下:抵抗性品種)への切替えが課題

2 課題を取り上げた背景と目的

抵抗性品種の育成

★国や他県で
「キタアカリ」,「アイマサリ」等の
抵抗性品種が育成

・・・鹿児島では低収,普及性低い



しまあかり
(母:デジマ 父:アローフ)

★鹿児島で「しまあかり」が育成
(2019年品種登録出願公表)

・・・なんぐう地区での適応性不明

活動の目的

なんぐう地区における「しまあかり」の現地適応性を検討し、
抵抗性品種導入を支援

3 普及指導計画での位置づけと活動体制

普及指導計画での位置づけ

1 野菜の産地づくり

- (1) 施設高生産野菜産地育成
- (2) 畑作地帯の土地利用型大規模露地野菜の安定生産支援

(3) ばれいしょ産地の維持・拡大

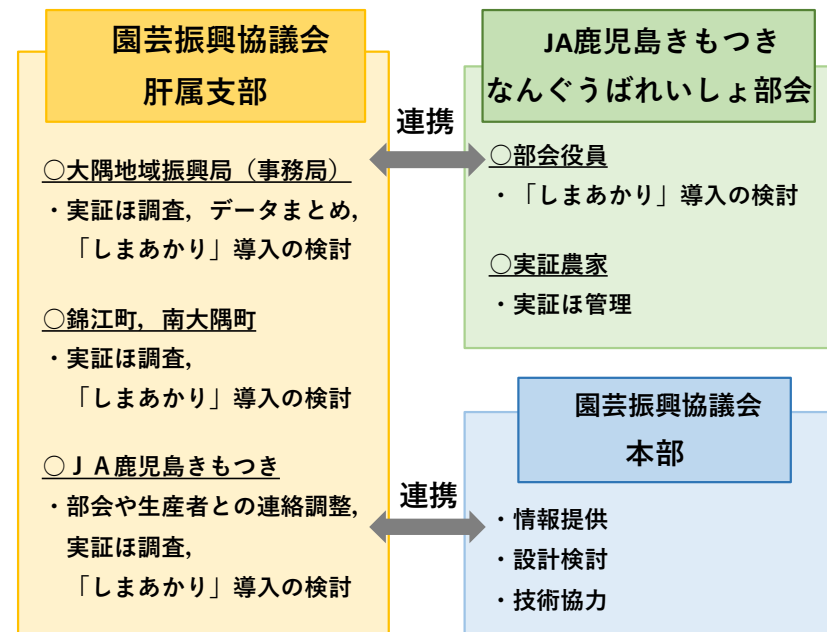
- ア シストセンチュウ抵抗性品種の導入支援
 - ・しまあかり(青果用)の地帯別適応性の検討
 - ・こいじゃ(加工用)の現地適応性の検討
- イ 省力・環境負荷低減技術の検討

(4) さやいんげんの生産安定支援

指導対象

- ・JA鹿児島きもつきなんぐう地区ばれいしょ専門部会
生産者 318人

3 普及指導計画での位置づけと活動体制



活動内容（地帯別適応性の検討）

「しまあかり」の地帯別適応性の検討

内容 : 地帯別（佐多，根占，大根占）に実証ほを設置し，生育や収量等を検討

目的 : ①産地導入を検討するためのデータ収集
②「しまあかり」の栽培特性の把握

設置ほ場 : 計17ほ場
(佐多4，根占6，大根占7)

植付け時期 : 11月～12月

供試品種 : 慣行品種 「ニシュタカ」
抵抗性品種 「しまあかり」

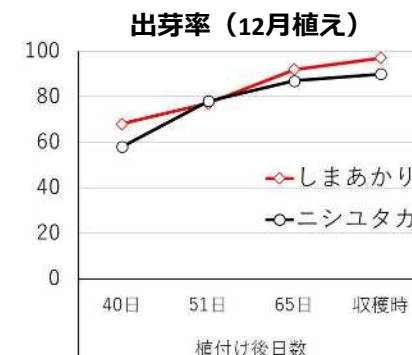
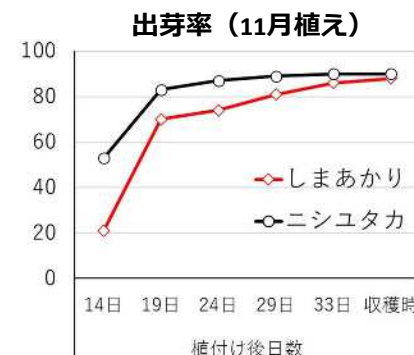


実証試験結果（地帯別適応性の検討）

出芽～初期生育 ※「ニシュタカ」との比較

11月植え : 出芽は数日遅いが，最終の出芽率は同程度
初期生育は遅い

12月植え : 出芽は数日早く，最終の出芽率は同程度
初期生育は同程度

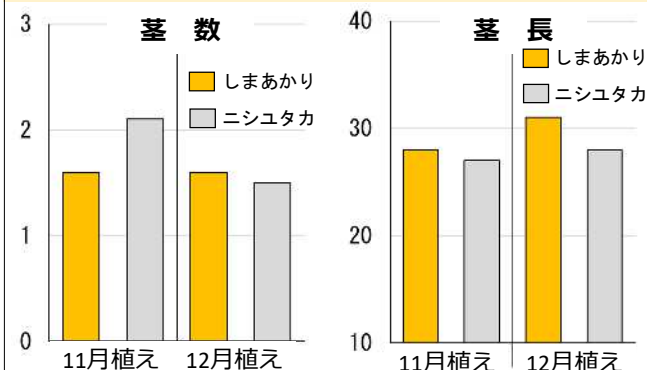


実証試験結果（地帯別適応性の検討）

収穫時の生育 ※「ニシュタカ」との比較

11月植え : 茎数は少なく（-0.5本/株），茎長は同程度
収穫期は遅い（データ略）

12月植え : 茎数は同程度で，茎長は長い（+3cm）
収穫期は遅い（データ略）



実証試験結果（地帯別適応性の検討）

地帯別の収量性 ※「ニシュタカ」との比較

佐多 : 同等以上の収量 (R5: 121%, R6: 118%)
根占 : 同等以上の収量 (R5: 108%, R6: 109%)
大根占 : R5年は，同等以上の収量 (107%)
R6年は，いも肥大期の霜害で低収（参考データ）

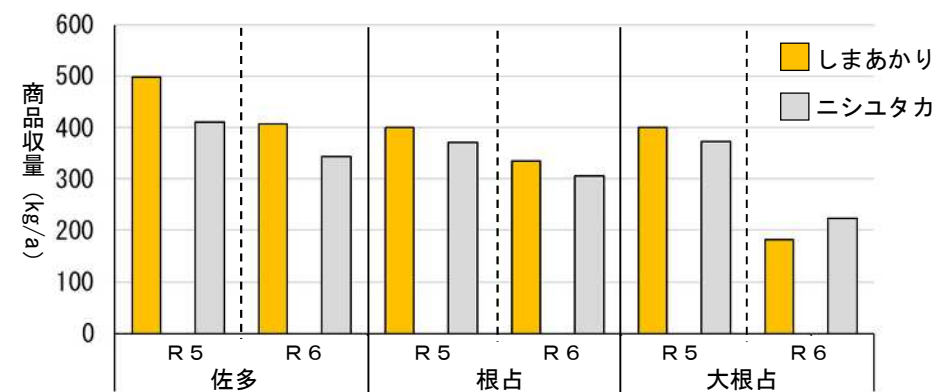
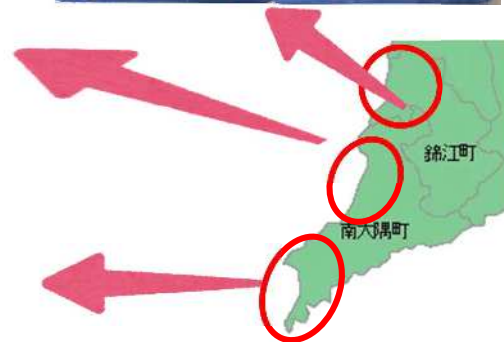


図 各地帯の品種毎収量

実証試験結果（地帯別適応性の検討）

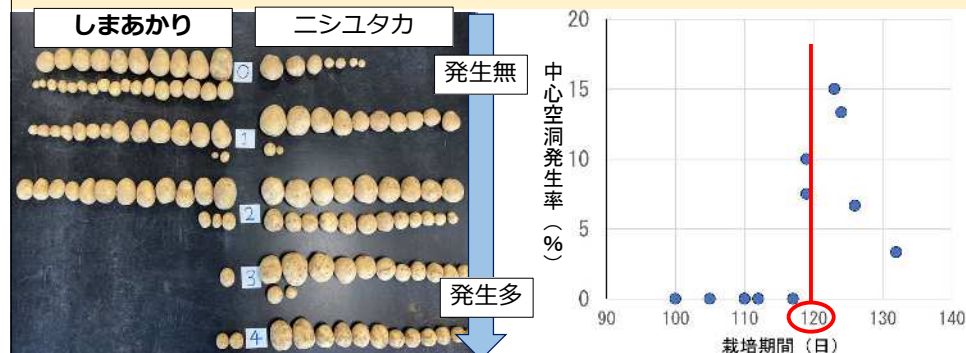
実際の収穫物



実証試験結果（地帯別適応性の検討）

その他の特性

- ★ 「ニシユタカ」に比べて、**粉状そうか病に強い**
- ★ 収穫遅れ（栽培120日以上）で、**中心空洞が発生しやすい**



地帯別適応性実証の結果：

「しまあかり」の栽培特性と有望性を確認

活動内容（経済栽培の実証）

「しまあかり」の経済栽培の実証

内容・目的：「しまあかり」を経済規模で栽培・選果・販売し、課題がないかを確認

試験年度：令和4年度（栽培面積11a）
6年度（栽培面積7a）

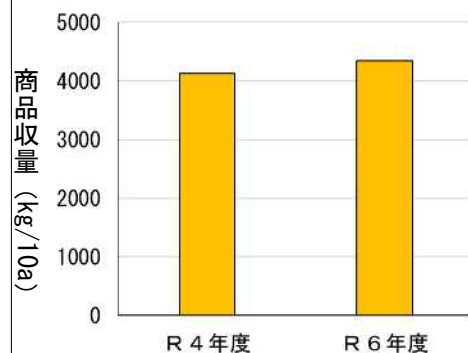


経済栽培実証ほ

実証試験結果（経済栽培の実証）

収量：4,000kg/10aを超え、**経済規模の栽培でも有望**

生産者評価：多収、良食味で**高評価**



図「しまあかり」経済栽培での収量実績



「しまあかり」の収穫

実証試験結果（経済栽培の実証）

選果～出荷：選果機の詰まりや皮剥け等を確認した結果、
選果場は問題なく対応可能（担当者コメント）

販売：クレームはなく、**販売単価は「ニシユタカ」並**



実証試験結果（経済栽培の実証）

市場関係者の評価：

「しまあかり」の“皮剥け・見た目・食味”は、
「ニシユタカ」と同等の評価

～市場関係者コメント抜粋～

- ・店頭で販売しても、「ニシユタカ」と変わらない
- ・見た目、食味等、「ニシユタカ」に劣らない



経済栽培実証の結果：栽培～販売まで、「しまあかり」は有望

抵抗性品種切替えへの意識醸成と「しまあかり」認知度向上

全生産者へ、

- ① シストセンチュウ抵抗性品種の必要性
- ② 「しまあかり」の栽培特性

を周知するため、

- ・地区別反省会（6～7月）
- ・地区別栽培講習会（10月）
- ・地区別出荷協議会（2月）

★抵抗性品種への切替え意識の醸成

★「しまあかり」認知度向上



講習会での「しまあかり」説明

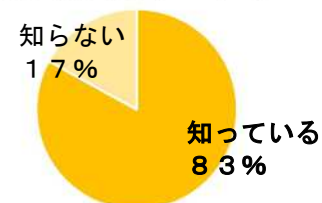


出荷協議会での「しまあかり」展示

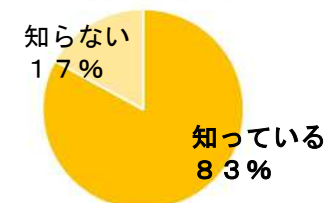
抵抗性品種切替えへの意識醸成と「しまあかり」認知度向上

アンケート調査結果（R7年）回答者数：95名

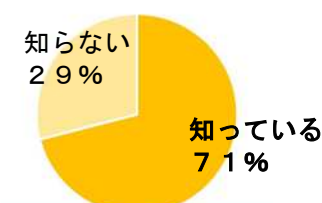
①「しまあかり」について



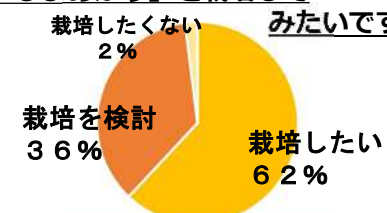
②「しまあかり」の取組みについて



③「しまあかり」の特性について



④「しまあかり」を栽培してみたいですか？



「しまあかり」に対する認知度と期待は高まりつつある

「しまあかり」産地導入の合意形成

実証データやアンケート結果をもとに
関係機関や部会役員会で検討を重ね、

「しまあかり」の段階的導入を合意



役員会での検討

★ ★ ★ なんぐう地区における「しまあかり」の導入計画 ★ ★ ★

R 7 年

R 8 年

R 9 年

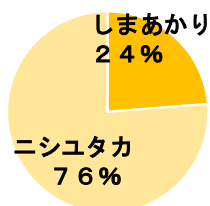
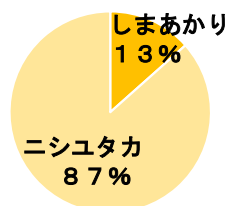
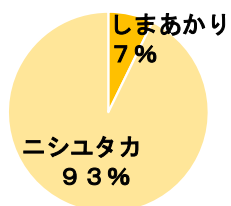
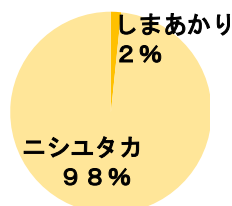
R10年

172袋

800袋

1,600袋

3,200袋



ご清聴ありがとうございました



5 残された課題

①「しまあかり」の更なる認知度向上

- ・生産者会議での周知継続
- ・のぼり旗や看板の設置

②「しまあかり」の栽培特性周知

- ・「しまあかり」特化型講習会の開催継続

③栽培特性に合わせた栽培技術の検討

- ・出芽促進, 中心空洞抑制技術の実証



のぼり旗の設置



「しまあかり」栽培講習会

関係機関・部会と協力を図りながら,
なんぐう地区への「しまあかり」導入を成功させる!